



第35回ジュニア大使・ブルネイ班

～小松団員、新潟日報に掲載～

第35回夏期ジュニア大使友情使節団参加、新潟県立新津第三小学校5年の小松瞭団員の記事が、新潟日報社「9月10日付朝刊、別刷り週刊ふむむむ2面下」に掲載されたので紹介する。

7月25日から31日まで、国際フレンドシップ協会(東京)のジュニア大使友情使節団として、東南アジアのボルネオ島にあるブルネイという国に行ってきました。以前にハワイや香港へ行ったことのある友だちの話を聞いて、機会があればぜひ外国を訪ねたいと考えていました。6月に新潟日報で募集記事を見て応募したところ、選ばれました。

ブルネイでは、グループでホームステイをしながら、国際マナーや英会話などを学んできました。中学校や日本大使館、モスク、水上の集落、博物館などに行き、現地の方々や英語で交流してきました。ブルネイの人から、たこや、こまなどの遊びを教わりました。

一番印象に残ったのは、ブルネイのハサナル・ボルキア国王と握手してもらったことです。王宮で開かれた誕生日パーティーにホストファミリーの方とともにジュニア大使5人も招かれたのです。東京で事前にブルネイ式の握手の仕方を研修していたことが役に立ちました。



ブルネイのハサナル・ボルキア国王(サングラスをかけた黒い服の男性)と握手する小松瞭さん(中央)

次に印象深かったのは、ボルネオ島にしか生息しないといわれるテングザルと見ることができたことです。マン

グローブ林と移動中の道路で、野生のテングザルを見ることができました。鼻がでーんと大きく、いかめしい顔でした。また他の国にも行ってみたいと思いました。

ブルネイ班日程

- 7/25(木) 都内会場、結団式、事前研修、駐日ブルネイ大使館訪問、成田空港に移動し、ホテルで事前研修
- 7/26(金) 成田からブルネイに空路向かう。着後、現地打合
- 7/27(土) 中学校訪問・交流、日本文化紹介、ホストファミリーとの出会い、交流(ブルネイの遊び、料理体験他)
- 7/28(日) ブルネイ国王誕生日会に参加、王宮・モスク・市場他視察
- 7/29(月) 在ブルネイ日本国大使館訪問、ブルネイ教育省訪問、水上村落・博物館他視察
- 7/30(火) 自然観察、ホストファミリーとのお別れ会、帰国へ
- 7/31(水) 成田空港着後、解団式

第35回春期ジュニア大使友情使節団 パラオ班 2020年3月実施 団員募集

当協会では、来春実施する「ジュニア大使・パラオ班」の参加者を下記の通り募集しています。地元の学校での交流や、政府関係機関訪問、美しい島々での平和学習や自然環境学習、そしてホームステイを通じ、英語で交流し、異なる文化でのコミュニケーションの手法を学びます。

- 企画監修：一般社団法人国際フレンドシップ協会
- 旅行実施：株式会社エイチ・アイ・エス 公務・メディア事業支店第一営業所
- 後援：パラオ共和国教育省
- 研修期間：3月26日(木)～4月2日(木)
- 参加資格：小4以上20歳未満、9名～15名
- 参加費用：38万7千円(航空税等を除く)
- 応募方法：「応募用紙」をダウンロードの上、応募
- 応募締切：令和2年1月31日(金)
- 説明会：都内、令和元年12月21日(土)予定

問合せ先：一般社団法人国際フレンドシップ協会 担当：小山、及川
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12 麻布台ロイヤルプラザ703
TEL 03-3582-3021、FAX 03-3582-3010、E-mail: junior-ambassadors@ifa-japan.org

世界万華鏡

ウズベキスタン留学生の見た日本 ハムラクロフ・ベギゾドベク “日本語の修行”

「修行」をネットで調べたら、「終わりのない行を修めること」と書いてありました。もともとは仏教のお坊さんのための言葉ですが、僕の日本語の勉強はまさに、修行そのものです。

僕は去年の4月に日本へ来ました。留学した理由は車や機械といった電子機器に興味があったからです。日本へ来たばかりの時、驚いたことや困ったことがたくさんありました。

困ったことの1つは、漢字です。僕はウズベキスタンの出身で、宗教上の理由で食べ物が少し違います。そのため、食品表示を読む必要がありますが、漢字ばかりで読めませんでした。そのせいで、生活を送るのがとても大変でした。

諦めて、国へ帰ろうと思ったことが何度もありました。しかし、アルバイト先や学校の友達とたくさん会話をする中で、もっと話せるようになりたい、思ったことを伝えたい。この気持ちのおかげで僕は日本語をもっと勉強するようになりました。日本語を学ぶ上で大切だと思ったのは、生の日本語に触れることです。アルバイト先で生の日本語に触れるチャンスがたくさんありました。仕事時間に、仕事のことだけ

でなく、さまざまなことを話すようにしたところ、サポートしてくれる人がたくさんできました。

授業で、「ソースをかける」と「電話をかける」の2つを習いました。いつ使うのか知りたくて、アルバイト先の店長にこの言葉について質問しました。店長は、「かける」という言葉についていろいろな使い方をこの紙に書いてくれました。「橋をかける、肩に手をかける、アイロンをかける、歯がかける…」などです。この紙を間違えて制服と一緒に洗濯してしまい、くちゃくちゃになってしまいましたが、今でも僕の宝物として、いつもパスケースに入れて持っています。

漢字は僕にとって永遠のテーマです。初めは漢字の本を開いたときに、たくさんアリの巣のようにしか見えませんでした。漢字は難しくても、日本で暮らす限りなくてはならないものです。僕は漢字を覚えるためにYouTubeで面白く漢字を紹介している動画を見て勉強しています。例えば、「困る」の漢字だったら「木を箱の中に入れたら木が困る」などです。動画を見ていて、驚いた漢字は「親切」という単語です。「親切」は優しいとい

う意味ですが、この単語の漢字を見ると全く優しいには見えません。せっかくいい単語なのに、何で親を切るという漢字をつけたのかと、ずっと疑問に思っています。

僕が伝えたいのは、辛い辛いと思っているとそれが無限に続くように思えますが、気の持ち方を変えたら、「終わりのない」ということが楽しくなるということです。困ったことがあった時、諦めて国へ帰っていたら毎年4月に咲ききれいな桜を日本で見ることはできなかったと思います。今では、これまで気付かなかった日本の魅力に気づき、自分の国との共通点を見つけることで、親近感もわいてきました。これからはもっと日本の文化について知りたいと思っています。

令和元年8月29日実施、IFA後援、「ARC日本語学校スピーチ大会」(於：国立オリンピック記念青少年総合センター)の特別賞スピーチ。

令和元年10月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：ダイト印刷刷